

「山の日」について

2014年6月調査結果



日本リサーチセンター

Member of Gallup International Association

東京都中央区日本橋本町2-7-1

TEL:03-6667-3400(代) FAX:03-6667-3470

<http://www.nrc.co.jp/>

◆2014年5月23日、「山の日」法案が可決した。これにより2016年から8月11日が新たに国民の祝日として増えることとなったが、このことについてどの程度認知されているか、またどのように思われているか、全国の15～79歳男女を対象に、訪問留置で聴取した。

【「山の日」法案は、どの程度知られているか？】

- ◆ 4割の人が「8月11日」であることも、「成立したこと」も知っていた。
- ◆ 「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」も含めると、認知率は7割に達する。
- ◆ 「山の日」も「8月11日」も「成立したこと」もすべて知っていた人は、男性60代が5割半ばと最も多く、女性15～39才が3割以下と少ない。

【「山の日」は、どの程度喜ばれているか？】

- ◆ 「とてもうれしい」は2割弱だが、「全くうれしくない」も2割存在する。
- ◆ 「とてもうれしい」と「ややうれしい」を合わせた「うれしい・計」は5割強で、男女ともに20代で多く、70代で少ない。
- ◆ 「山の日」をうれしいと思う気持ちは、当然ながら祝日の増加にどの程度ありがたみがあるのかに影響していると思われる。
「うれしい・計」はいわゆる“会社員(管理職、事務・技術職)”および学生で7割弱と多いが、普段の労働(家事を含む)が祝日にあまり関係のない自営・商工業、主婦専業では4割強と少なく、あまり喜ばれていない。

「山の日」法案については、約4割の人が「山の日」も「8月11日」であることも、「成立したこと」も知っていた。

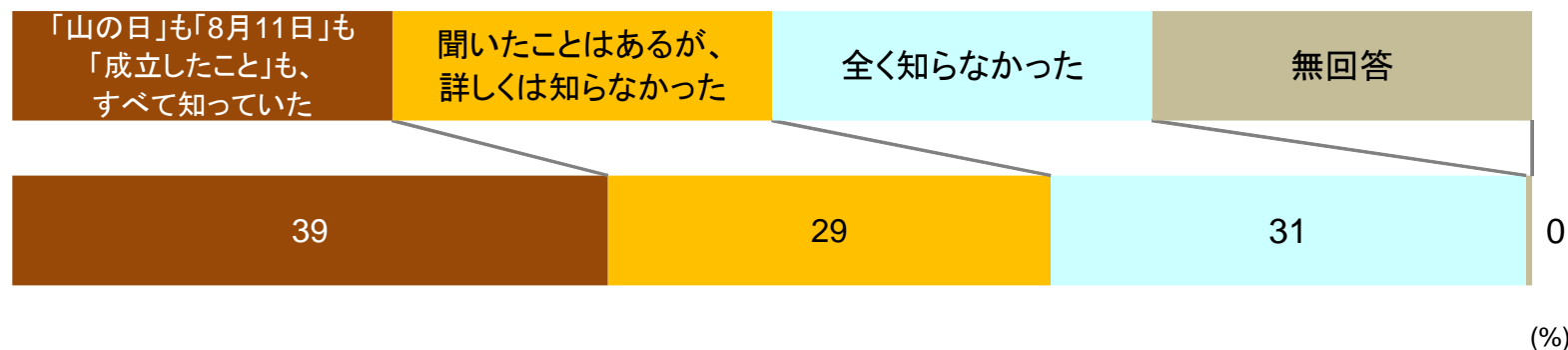
「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」も含めると、認知率は7割。

■「山の日」法案について、「『山の日』も『8月11日』も『成立したこと』も、すべて知っていた」という人は39%であった。

■「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」は29%で、これも含めると、69%の人が認知していた。

問. 新たな国民の祝日として、2016年から8月11日を「山の日」と定める法案が成立しました。
このことについて、あなたはご存知でしたか。(○は1つだけ)
※(注)「山の日」の意義は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされています。

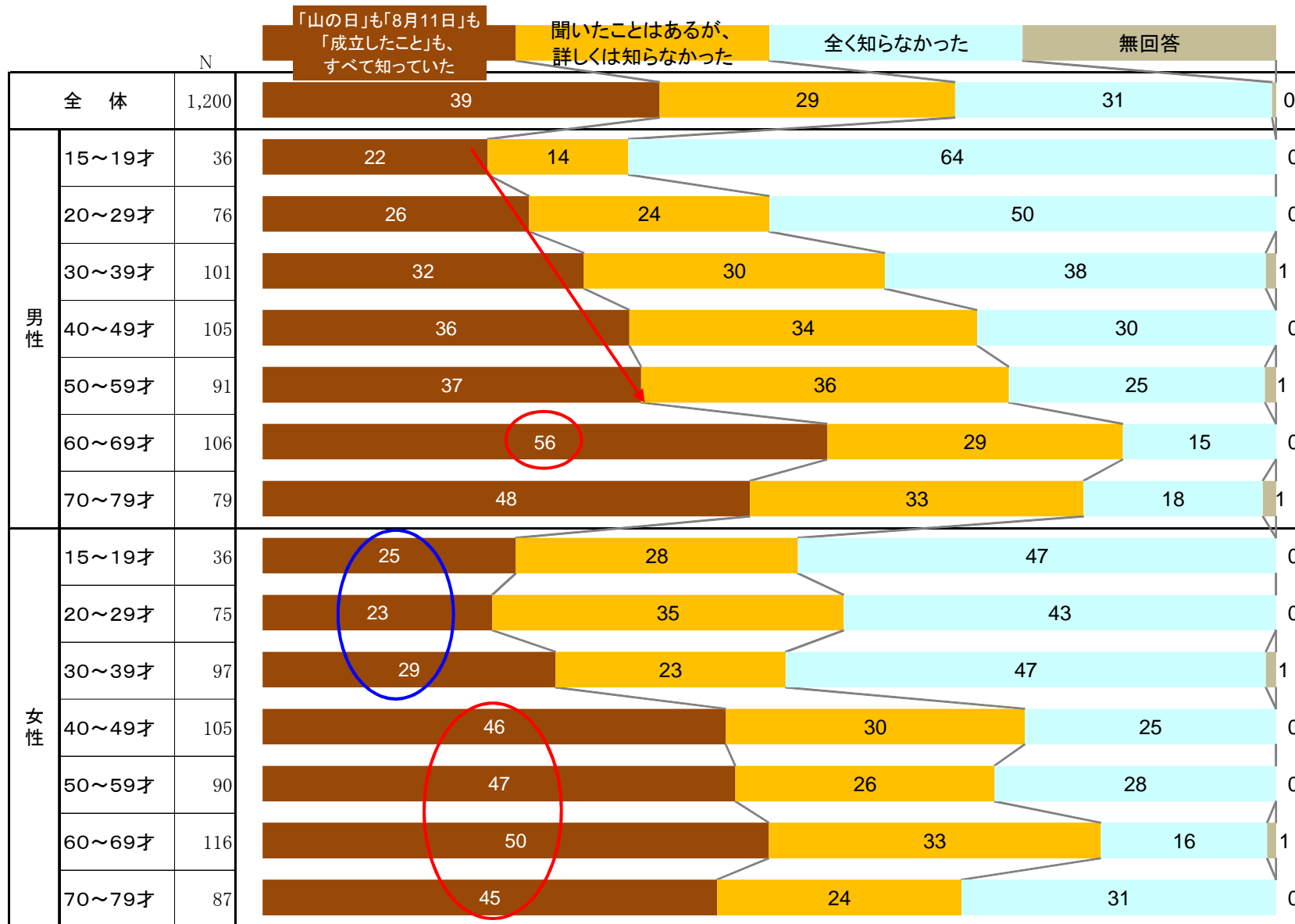
	N
全 体	1,200



「山の日」も「8月11日」も「成立したこと」もすべて知っていた人は、男性60代が5割半ばと最も多く、女性15～39才が3割以下と少ない。

■性・年代別で見ると、男性は年代が上がるほど「すべて知っていた」が多くなっており、60代男性では56%にのぼる。

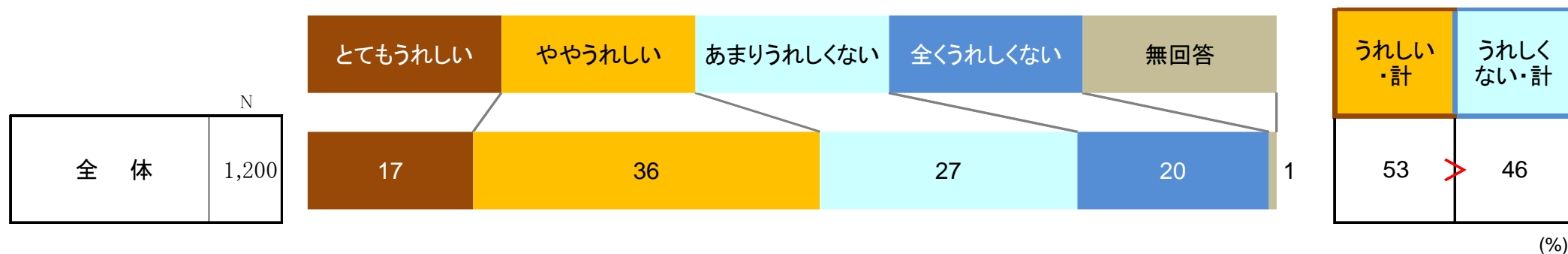
■女性では、30代以下は「すべて知っていた」が23～29%だが、40代以上は45～50%と多く、30代以下と40代以上で差がみられる。



※男性15～19才、女性15～19才は、サンプル数些少のためコメントは割愛している。

「山の日」について、「とてもうれしい」は2割弱だが、「全くうれしくない」も2割存在。
 「とてもうれしい」と「ややうれしい」を合わせた「うれしい・計」は5割強で、「うれしくない・計」の4割半ばをやや上回る。
 ■「山の日」という祝日が増えることについて、「とてもうれしい」と答えた人は17%だが、「全くうれしくない」も20%存在する。
 ■「とてもうれしい」と「ややうれしい」を合わせた「うれしい・計」は53%で、「あまりうれしくない」と「全くうれしくない」を合わせた「うれしくない・計」46%をやや上回る。

問. 2016年から「山の日」という国民の祝日が増えることにより、日本の年間の祝日は16日になります。8月に祝日ができるのは初めてで、祝日のない月は6月のみとなります。このことについて、あなたはどのように思われますか。(○は1つだけ)

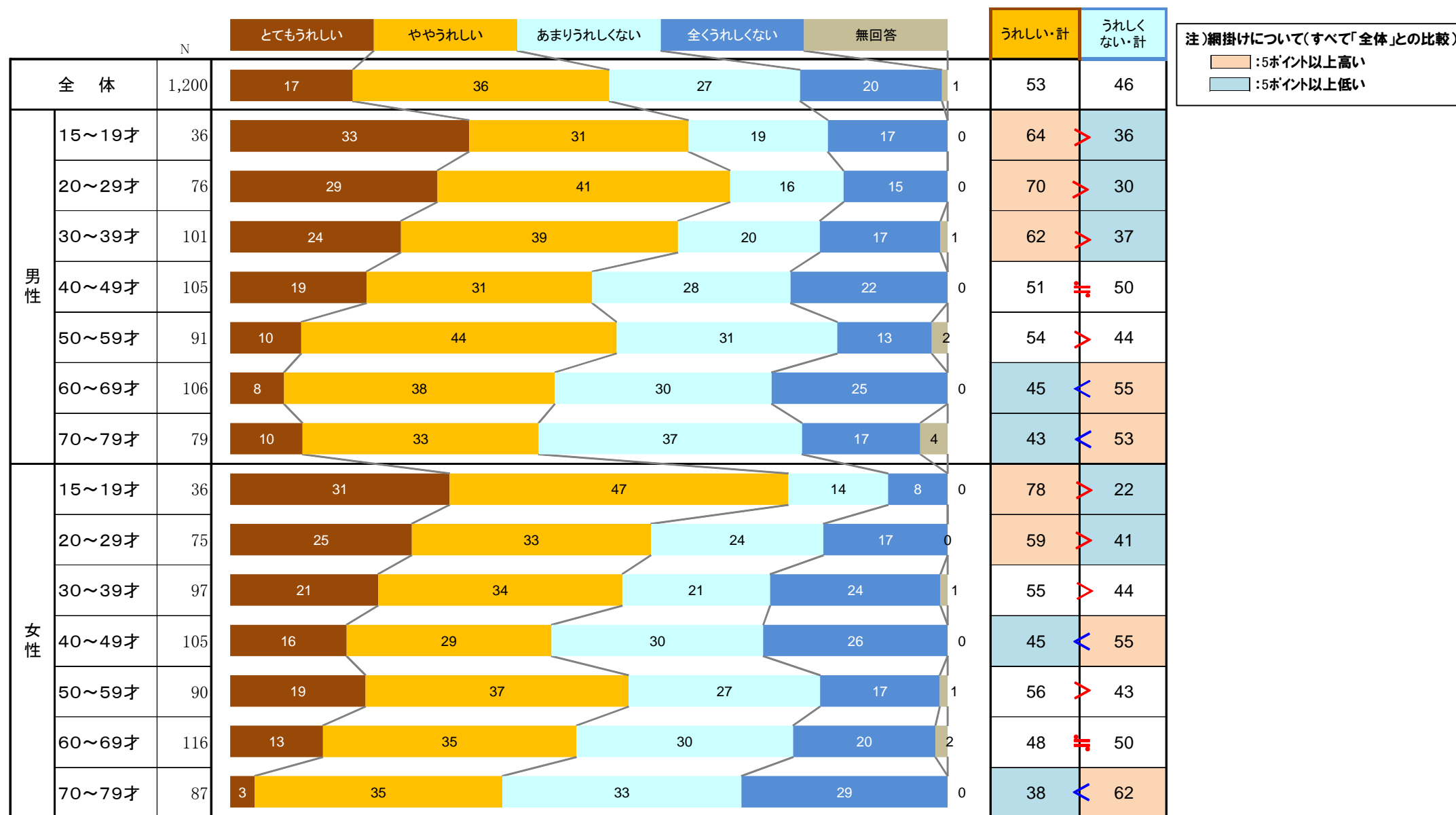


「山の日」ができてうれしいか(性・年代別)

「とてもうれしい」と「ややうれしい」を合わせた「うれしい・計」は、男女ともに20代で多く、70代で少ない。

■性・年代別で見ると、「とてもうれしい」と「ややうれしい」を合わせた「うれしい・計」は男女ともに20代で59～70%と多く、70代で38～43%と少ない。

■男性は60～70代、女性は40代と70代で「うれしい・計」が少なく、「うれしくない・計」の方が上回っている。



※男性15～19才、女性15～19才は、サンプル数些少のためコメントは割愛している。

(%)

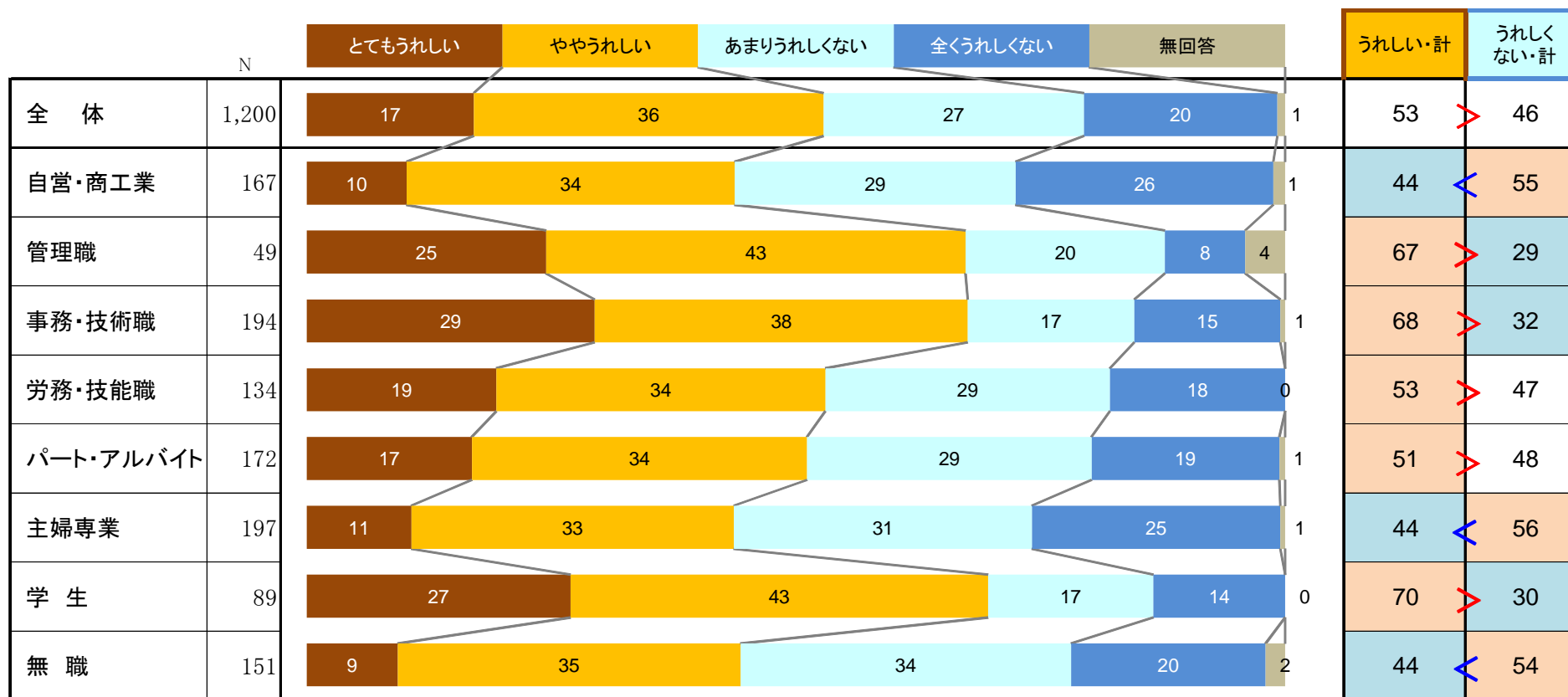
「山の日」をうれしいと思う気持ちは、祝日の増加にどの程度ありがたみがあるかに影響していると思われる。
 「うれしい・計」はいわゆる“会社員(管理職、事務・技術職)”および学生で7割強と多いが、**自営・商工業、主婦専業**では4割強と少なく、あまり喜ばれていない。

- 職業別で見ると、**管理職、事務・技術職、学生**では「うれしい・計」が67~70%と多い。
- 一方、**自営・商工業、主婦専業**では「うれしい・計」が少なく、「うれしくない・計」が55~56%と多い。

注)網掛けについて(すべて「全体」との比較)

■ :5ポイント以上高い

■ :5ポイント以上低い



(%)

調査方法

- NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ)
- 調査員による個別訪問留置調査

調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人

有効回収数

- 1200人(サンプル) ※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付実施

抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当て

調査期間

- 6月調査

2014/6/4 ~ 2014/6/16

NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ)について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。

NOSは、毎月1回定期的に実施する乗り合い形式(オムニバス)の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

《 引用・転載時のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先: 日本リサーチセンター広報室 メール: information@nrc.co.jp

掲載では必ず当社クレジットを明記していただきますようお願い致します。

調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。